



## 堀辰雄『美しい村』論(二〇〇八年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2012-01-24 キーワード: 作成者: 吉田, 侑子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00007318">https://doi.org/10.32150/00007318</a>

## 堀辰雄『美しい村』論

近代文学研究室 五一六五 吉田 侑子

本研究は、堀辰雄の『美しい村』の二章「美しい村」を中心に、遁走曲形式との関係を具体的に検証したうえで、作品全体に共通する主題を考察したものである。

従来の研究では、作品全体のテーマが遁走曲形式の「主題と応答」の関係にあたりと指摘されてきた。しかし、遁走曲に関する記述は二章でしか見られないことから、まずは二章に注目し、楽譜上の「主題と応答」の旋律の動きと、二章の中で交互に現れるもの（「イデエ」）の動きとを比較した。そして「イデエ」が交互に入れ替わりながら作品が展開し、入れ替わった後も完全に描写が消えることなく続いていくという様が遁走曲形式の「主題」の動きと一致することがわかった。

また、各章に繰り返し現れるものやテーマを並べることで作品全体に共通するテーマが明らかとなった。主人公である「私」の、過去の追想に始まり、現在、そして未来へ向かう時間の流れと、作品の舞台である「美しい村」の風景や住民を通して描かれる実際の時間の流れ。この二つの時間の流れの絡み合いが四章を通して描かれている。そして、過去の追想と現在の時間の間を行き来する「私」の時間の流れと、常に一直線で先へ向かう「美しい村」の時間の流れとが、最後には未来という同じ方向を目指し、一つの時間の流れとして描かれているのである。